

# 公正な就活の実現に向けた ライフリンクからの提言

～「就活に関わる意識調査」結果を踏まえて～

- (1) 採用活動における企業の  
「二枚舌」を禁止する
- (2) 「働くことについて考える機会」を  
小中学校・高校で段階的に設ける
- (3) 就活生が相談しやすい環境を作る

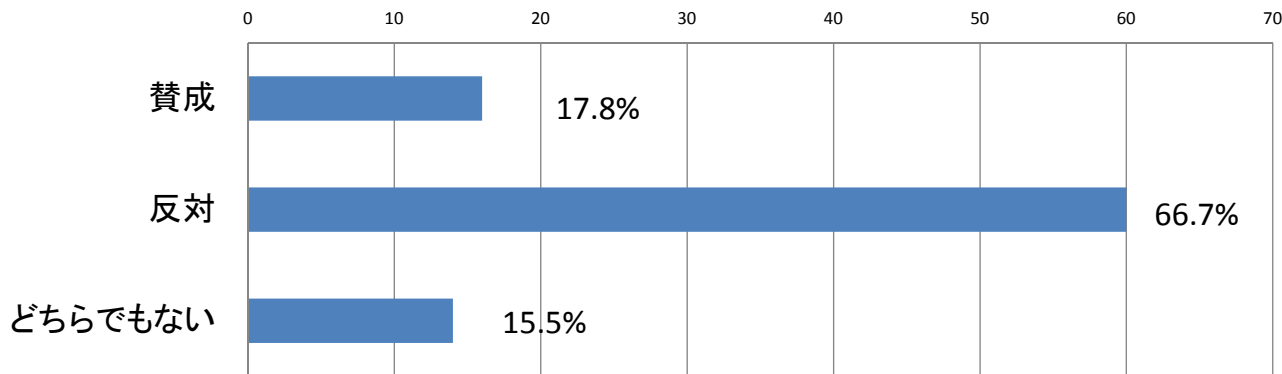
1

## 提言（1） 採用活動における企業の 「二枚舌」を禁止する

- ・多くの企業が、経団連の「倫理憲章」に従う（＝4／1以降に選考を行う）と謳っておきながら、実際は水面下で学生に接触し、実質的な採用活動を行っている。（セミナーや社員と語る会と称した選考活動、リクルーター制など）
- ・採用活動における企業の「二枚舌」を是正しない限り、就職活動の（建て前の）開始時期をずらしても意味がない。むしろ、いま以上に就活生を混乱に陥れることになる。
- ・「倫理憲章」に従うと謳うのであれば、企業はそれを遵守すること。あるいは、それに従わないのであれば、企業はその旨を明示すること。そして、「二枚舌」を使って就活生を惑わすのをやめること。

2

## 7月の設問7 就活の解禁時期を変更する政府案についてどう思いますか



7月の調査対象122人中、回答を得られた90人を分類

具体的な内容は、本資料の『7月版「自由記述」抜粋』を参照

3

## 提言（2）

「働くことについて考える機会」を  
小中学校・高校で段階的に設ける

・就職活動を始める段階になってはじめて「働くこと」について考える機会を持たないという学生が少ない。「もっと前から、働くことに対して考えておかなければならなかったと後悔」などの声も多く、慌ただしく「自己分析」を行うなどして不本意な就活をせざるを得なかった学生が少ないのでは。

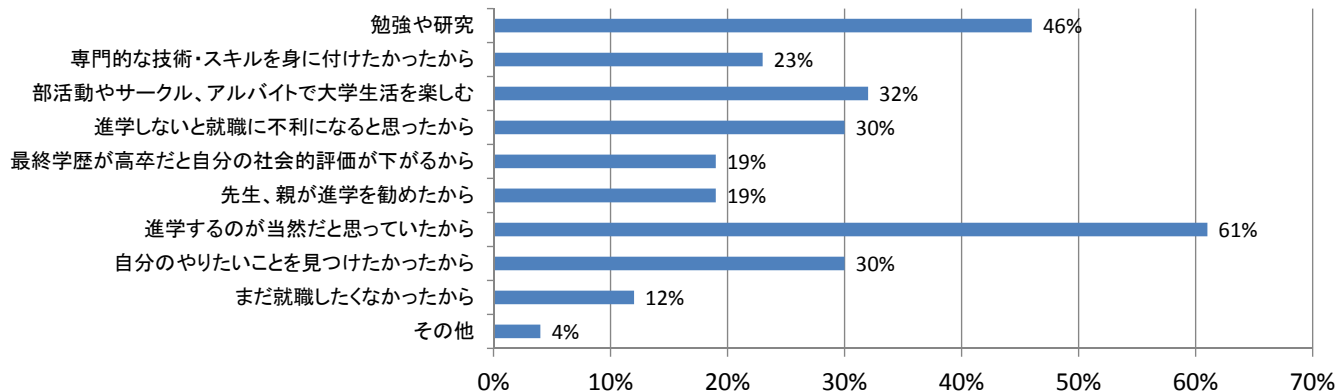
・今は労働市場の3分の1が非正規雇用という厳しい時代。昔のように、大学を出ればなんとかなるとい時代ではない。教育を通じて、そうした社会の実状を伝えていくべきところが、学生に十分伝えきれていない。

・大学進学が目的化してしまっている教育システムをあらためて、「社会で生きていくこと(働くことも含む)」を念頭に置いた教育に変えていくべきである。それがすぐには実現できなくても、せめて「働くことについて考える機会」を、小中学校・高校で段階的に設けていくべきである。それは結果的に、子どもたちの学ぶ意欲の向上(動機付け)や、企業と学生のミスマッチや3年以内離職率の改善、地域と学校との連携(地域の様々な大人が自らの仕事についてゲストスピーカーとして学校で語るなど)の促進にもつながる可能性もある。

4

## 提言（2） 関連データ

## 3月の設問44 あなたが大学に進学しようと思った理由は何ですか。（複数回答可）



3月の調査対象121人中

多くの学生が大学進学の原因を「当然だと思っていたから」と回答しており、その先の人生について、十分に見通した上での選択でないことがうかがえる。

5

## 提言（3）

## 就活生が相談しやすい環境を作る

・提言(3)関連データにある通り、就活で悩んだ時に大学キャリアセンターなどに相談しようとする学生は非常に少ない。また、悩みやストレスを抱えた時、誰かに相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じるという学生が多い。

・これは、大学主催の「キャリア教育」や「就活ガイダンス」では、ほとんどの場合、就活がうまくいったOBやOGをゲストスピーカーとして招き、「就活の成功モデル」しか提示していないことが影響しているのではないかと。

・就活生が相談しやすい環境を作るために、就活につまずいた時に相談機関を利用するための具体的な方法や、実際に利用して立ち直ったOBやOGの「失敗からの回復モデル」もあわせて提示すべきである。そうして、学生が「いざという時には（就活が仮にうまくいかなかったとしても）、こうすればいいんだ」という安心感を持てるようにすべきである。

6

# 提言 (3) 関連データ

